

平成27年度

高松市教育振興基本計画の進行管理
及び点検・評価に関する報告書

高松市教育委員会

目次

	ページ
◎はじめに	
1 趣旨	1
2 点検・評価の対象	1
3 点検・評価の方法	1
4 点検・評価実施報告書の構成	1
5 点検・評価対象項目一覧	2
◎点検・評価表	
I 学校教育の充実	
1 確かな学力の育成	3
・個別補充学習「マイ・スタディ」を実施する学校	4
・特別支援教育指定園の数	5
・特別支援教育支援員数	6
・個別教育支援計画の作成率	7
・帰国児童等指導員の指導回数	8
2 豊かな心と体を育てる教育の推進	9
・「ありがとうの日」を実施する学校	11
・外国語指導助手（ALT）等によるティーム・ティーチング の実施回数	12
・全国体力・運動能力、運動習慣等調査	13
・朝ごはんを食べている子どもの割合	14
・「マイ・ランチの日」を実施する学校	15
・小児生活習慣病二次検診受診者（有所見児童）における受診後 の改善・改善傾向の児童数の割合	16
・食に関する年間指導計画を作成している学校の割合	17
・健康教育研修会の参加者数	18
・キャリア教育のカリキュラムを作成している学校の割合	19
・サンクリスタル学習参加校数	20
・暴力行為の発生件数	21
・いじめ発生件数	22
・不登校に関する教員研修の参加者数	23
・適応指導教室の児童・生徒の学校復帰率	24
・フレンドシップ事業の参加者数	25
3 教員の資質向上と教育指導体制の充実	27
・校務用コンピュータの整備率	28
・教職員研修講座の参加者数	29
・教育センターの整備	30

II	学校教育環境の整備	
1	学校教育施設の整備	31
	・学校施設耐震化率	32
	・給食場半ドライシステム化整備率	33
	・校庭の芝生化を実施した学校	34
2	教育機能と就学支援の充実	35
	・学校図書館図書標準を達成した学校の割合	36
	・情報教育に関する校内研修を実施する学校の割合	37
3	家庭・地域との連携	39
	・学校サポート委員会の平均実働回数	40
	・放課後子ども教室実施校区数	41
	・地域の行事に参加する児童・生徒の割合	42
III	家庭教育の向上	
1	家庭・地域教育の充実	43
	・早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業を実施する学校	44
	・子育て支援事業、地域との交流活動の参加者総数	45
IV	青少年の健全育成	
1	青少年の健全育成の推進	47
	・放課後子ども教室実施校区数〔再掲〕	48
	・「情報モラルモデルカリキュラム」を活用した、教員研修を実施する学校	49
	・学級担任による情報モラル教育を年2回以上実施する学校の割合	50
V	子どもの安全確保	
1	子どもの安全対策の推進	51
	・PTAへの不審者情報メール配信率の向上	52
	・学校安全管理研修会の参加者数	53

◎教育施設等の概況

1	学校等	55
2	学校給食調理場	60
3	少年育成センター	60
4	総合教育センター	60
5	社会教育施設	60

はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、教育委員会は、毎年、その教育行政事務の管理執行状況について、自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表すること、また、その点検・評価に当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとするとしています。

そこで、高松市教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するため、高松市教育振興基本計画の施策目標の進捗状況について点検・評価を実施し、報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

高松市教育振興基本計画において、平成27年度にめざす姿として「施策の目標」に掲げている項目の平成26年度の進捗状況について、点検・評価の対象としました。

3 点検・評価の方法

「施策の目標」に掲げている項目の点検・評価表を掲載しています。

各項目については、高松市教育振興基本計画における位置付けを示すとともに、事務局において評価を総括し、また、点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する次の方々から、御意見をいただきました。

(敬称略)

氏名	所属等
新見 治	香川大学教育学部教授
田中 良子	高松大学経営学部教授
樽谷 佳樹	高松市PTA連絡協議会相談役

4 点検・評価に関する報告書の構成

- (1) 平成26年度の点検・評価表
- (2) 教育施設等の概況

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】抜粋

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成26年度 点検・評価対象項目
(高松市教育振興基本計画の施策の目標に掲げた項目)

I 学校教育の充実

1 確かな学力の育成 【進捗度:B】

個別補充学習「マイ・スタディ」を実施する学校	(学校教育課)	A
特別支援教育指定園の数	(こども園運営課)	A
特別支援教育支援員数	(学校教育課、こども園運営課)	B,B
個別教育支援計画の作成率	(学校教育課)	B
帰国児童等指導員の指導回数	(学校教育課)	A

2 豊かな心と体を育てる教育の推進 【進捗度:A】

「ありがとうの日」を実施する学校	(学校教育課、こども園運営課)	A
外国語指導助手(ALT)等によるティーム・ティーチングの実施回数	(学校教育課)	B
全国体力・運動能力、運動習慣等調査	(保健体育課)	B
朝ごはんを食べている子どもの割合	(生涯学習課)	B
「マイ・ランチの日」を実施する学校	(学校教育課)	A
小児生活習慣病二次検診受診者(有所見児童)における受診後の改善・改善傾向の児童数の割合	(保健体育課)	B
食に関する年間指導計画を作成している学校の割合	(保健体育課)	A
健康教育研修会の参加者数	(保健体育課)	A
キャリア教育のカリキュラムを作成している学校の割合	(学校教育課)	A
サンクリスタル学習参加校数	(文化財課)	A
暴力行為の発生件数	(学校教育課)	A
いじめ発生件数	(学校教育課)	A
不登校に関する教員研修の参加者数	(総合教育センター)	A
適応指導教室の児童・生徒の学校復帰率	(総合教育センター)	A
フレンドシップ事業の参加者数	(総合教育センター)	A

3 教員の資質向上と教育指導体制の充実 【進捗度:A】

校務用コンピュータの整備率	(総合教育センター)	A
教職員研修講座の参加者数	(総合教育センター)	A
教育センターの整備	(総合教育センター)	B

II 学校教育環境の整備

1 学校教育施設の整備 【進捗度:B】

学校施設耐震化率	(総務課、高松一高、こども園運営課)	A
給食場半ドライシステム化整備率	(保健体育課)	C
校庭の芝生化を実施した学校	(総務課、こども園運営課)	A,B

2 教育機能と就学支援の充実 【進捗度:A】

学校図書館図書標準を達成した学校の割合	(学校教育課)	A
情報教育に関する校内研修を実施する学校の割合	(総合教育センター)	A

3 家庭・地域との連携 【進捗度:B】

学校サポート委員会の平均実働回数	(学校教育課)	C
放課後子ども教室実施校区数	(子育て支援課)	B
地域の行事に参加する児童・生徒の割合	(総務課)	B,A

III 家庭教育の向上

1 家庭・地域教育の充実 【進捗度:A】

早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業を実施する学校	(生涯学習課)	A
子育て支援事業、地域との交流活動の参加者総数	(こども園運営課)	A

IV 青少年の健全育成

1 青少年の健全育成の推進 【進捗度:A】

放課後子ども教室実施校区数〔再掲〕	(子育て支援課)	B
「情報モラルモデルカリキュラム」を活用した、教員研修を実施する学校	(総合教育センター)	A
学級担任による情報モラル教育を年2回以上実施する学校の割合	(総合教育センター)	A

V 子どもの安全確保

1 子どもの安全対策の推進 【進捗度:A】

P T Aへの不審者情報メール配信率の向上	(少年育成センター)	A
学校安全管理研修会の参加者数	(保健体育課、高松一高、こども園運営課)	A

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

I 学校教育の充実

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
1 確かな学力の育成	B	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 個別補充学習「マイ・スタディ」を実施する学校（小・中学校）	A
2 特別支援教育指定園の数（幼稚園）	A
3 特別支援教育支援員数（幼稚園、小・中学校）	B,B
4 個別教育支援計画の作成率（小・中学校）	B
5 帰国児童等指導員の指導回数（小・中学校）	A

【事務局評価】

全小・中学校で実施されている「マイ・スタディ」について、各学校の効果的な取組や課題を交流する場を設けることにより、内容の充実やより効果的な実践にする必要がある。

また、特別な支援を要する子どもの支援については、特別支援教育支援員の勤務時間を延長したことにより、支援体制の充実が図られている。

【今後の課題】

特別支援学級の1学級あたりの在籍数が年々増加している等、障がいの種別や程度に対応した適切な支援の充実を図ることが課題である。また、外国からの編入学児童生徒が増加しており、帰国児童等指導員による学習、生活の指導援助を継続、充実していく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・子どもたちの多様な学習ニーズに応えるように、きめ細かな支援策に着実に取り組んでいる。特別支援教育に関わる講師の加配等、特別支援教育の一層の充実を図ってほしい。
- ・個別の補充学習である「マイ・スタディ」は、計画どおりに進行、定着しており評価できる。生涯を通して持続可能な学ぶ習慣を育てる実践を効果的に展開してほしい。個々に対応して生きる力を育てる特別支援教育の充実と通底していると考えます。
- ・「マイ・スタディ」のみならず、夏休み短縮などの取組を利用した、子どもたちの学力向上に努めてほしい。様々な障がいや、多様な環境の下、通園・通学している子どもたちに対して、より一層充実した支援をお願いしたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	1 確かな学力の育成

施策目標の項目	個別補充学習「マイ・スタディ」を実施する学校（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	各学校で、放課後の時間帯等を活用した、個別の補充学習「マイ・スタディ」の計画・実施に努める。

平成 26 年度実施内容

子どもの成長を願う 6 つの活動の一つとして、各学校の実情に合わせて、朝の活動の時間や放課後等に「マイ・スタディ」の時間を設定して取り組んだ。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
—	小・中学校 全学年で実 施 47 校、一 部の学年で 実施 17 校	小・中学校 全学年で実 施 67 校、一 部の学年で 実施 3 校	小・中学校 全学年で実 施 62 校、一 部の学年で 実施 7 校	全校	全校	全校	A

【評価】

全小・中学校において、マイ・スタディは定着しており、基礎学力の定着を目的にした個別の補充学習が実践できている。各学校において、自校の全国学力・学習状況調査の結果を分析し、改善策の一つとして、マイ・スタディを活用し学力の向上に効果をあげている。

今後は、各学校での効果的な取組や課題を交流する場を設け、それぞれの学校において内容の充実を図り、より効果的な実践にする必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

週行事予定への位置付けを定着させるとともに、児童生徒一人一人の理解や習熟の程度に合った個別の指導の充実を図り、基礎学力の定着を図る。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	1 確かな学力の育成

施策目標の項目	特別支援教育指定園の数（幼稚園）
主管課	こども園運営課
事業内容	特別支援教育の必要な幼児に対するきめ細かな対応の推進を行うため、特別支援教育指定園に教員を加配するなど、就学前における特別支援教育の充実を図る。

平成 26年度実施内容

特別支援教育の必要な幼児に対するきめ細かな対応の推進を行うため、26園を特別支援教育指定園とし、特別支援教育加配講師配置により、就学前における特別支援教育の充実を図った。指定園以外においても、保護者の希望によっては、幼児の状況や教育的ニーズ、園や地域の状況等の総合的な観点から、就園に対する合意形成を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
9 園	14 園	14 園	14 園	26 園	26 園	全園	A

【評価】

障がいのあるなしにかかわらず同じ場で共に教育を受けることや、個人に必要とされる合理的配慮が提供されること等が義務付けられていることから、就園及びその後の必要な支援に関しては、保護者に対し十分情報提供をしつつ、望ましい手立てへの合意形成を図ることが必要である。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

幼稚園に入園後、集団生活の中で個別に支援が必要であると思われ、専門機関に通ったり、医師の診断を受けたりする幼児が増加傾向にあるため、特別支援教育指定園以外の園においても、支援体制を早急に構築する必要がある。

今後、教員の特別支援教育に関する専門性を高める研修の充実を図り、すべての幼稚園等において、特別な支援を要する幼児が共に学べるよう体制整備を行う必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	1 確かな学力の育成

施策目標の項目	特別支援教育支援員数（幼稚園、小・中学校）
主管課	学校教育課、こども園運営課
事業内容	特別支援学級に在籍する様々な障がいのある児童生徒及び特別支援教育の必要な就学前の幼児の基本的な生活習慣の確立や身体能力の向上のため支援を行い、特別支援教育の充実を図る。

平成 26年度実施内容

小学校43校、中学校20校の計63校に65名を配置し、様々な障がいのある児童生徒に対する学校生活上の介助や学習指導上の支援などを行った。幼稚園では、特別支援教育の必要な幼児に対するきめ細かな支援を行うため、特別支援教育加配講師を40名配置し、就学前における特別支援教育の充実を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
小・中学校 45人	52人	52人	52人	65人	65人	98人	B
幼稚園 13人	20人	20人	30人	40人	40人	必要に応じた人数	B

【評価】

支援員の配置人数が増え、個に応じた支援を行うことにより、子どもたちは、充実した学校生活を過ごすことができている。特別支援教育支援員の果たす役割は大きく、学校現場からの配置要望は強い。特別支援教育支援員の勤務時間を平成26年度より5時間に延長したところ、各小・中学校からは高評価を得ている。

障がいのあるなしにかかわらず同じ場で共に教育を受けることや、個人に必要とされる合理的配慮が提供されること等が義務付けられていることから、すべての幼稚園において支援を必要とする幼児の状態に対して必要な特別支援教育加配講師を配置できる体制づくりを急務に行う必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

小・中学校に在籍する発達障害のある児童生徒の割合が増加するとともに、特別支援学級の1学級あたりの在籍数が年々増加しており、介助や学習内容の理解を促す補助の頻度が増しており、障がいの種別や程度に対応した適切な支援の充実を図ることが課題である。

幼稚園における特別支援教育サポーターが平成23年度で終了したことから、平成24年度より特別支援教育加配講師を増員している。入園を希望する特別な支援を要する幼児の増加を受けて、平成27年度より、すべての園で特別な支援を要する幼児の受け入れを行うことから、今後も幼児の状態や教育的ニーズに対応するため、必要数の特別支援教育加配講師の配置を行うことが課題である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	1 確かな学力の育成

施策目標の項目	個別の教育支援計画の作成率（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	特別な支援が必要な児童生徒に一人ひとりの教育的ニーズに合わせた教育支援計画を作成するよう努める。

平成 26 年度実施内容

小学校50校中46校、中学校23校中21校、合計73校中67校（91.8%）で、特別な支援が必要な児童生徒に対して個別の教育支援計画を作成した。サポートファイル「かけはし」の作成を含めると、小学校47校、中学校23校、計70校（97%）が支援計画またはサポートファイル、あるいは両方を作成している。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
45%	87%	89%	90%	94%	97%	100%	B

【評価】

個別の教育支援計画の活用により、個に応じた支援の充実に繋がっている。

特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者・療育機関との連携強化、体制の整備をさらに進めていく必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

サポートファイル「かけはし」の有用性を保護者へしっかりと説明するとともに、個別の教育支援計画の作成・充実を各学校へ要請する。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	1 確かな学力の育成

施策目標の項目	帰国児童等指導員の指導回数（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	小・中学校に編入学した、日本語指導を必要とする帰国児童生徒・外国人児童生徒に対して、学習や生活についての指導援助を行う指導者を派遣することにより、日本語指導の充実を図る。

平成 26年度実施内容

小学校 12 校（対象児童 22 名）、中学校 7 校（対象生徒 13 名）に中国語、タガログ語、英語の指導者を派遣し、学習や生活についての指導援助を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
1 校当り 12 回/年	1 校当り 15 回/年	1 校当り 18 回/年	1 校当り 24 回/年	1 校当り 24 回/年	1 校当り 24 回/年	1 校当り 24 回/年	A

【評価】

学校からの要請に応じて、限られた回数ではあるが指導者を派遣し、帰国児童生徒及び外国人児童生徒の学校生活を支援することができている。

日本語指導が必要な児童生徒等の増加及び、年度途中から編入学する児童生徒に対し、指導者を派遣し、学習指導や生活支援等、個に応じた対応を継続して実施する必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

外国からの編入学児童生徒が増加しており、学校の教員だけでは対応できないケースがあるため、日本語指導者との協働による支援が必要である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

I 学校教育の充実

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
2 豊かな心と体を育てる教育の推進	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 「ありがとうの日」を実施する学校（幼稚園、小・中学校）	A
2 外国語指導助手（ALT）等によるティーム・ティーチングの実施回数（小・中学校）	B
3 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学生、中学生）	B
4 朝ごはんを食べている子どもの割合（小学校6年生）	B
5 「マイ・ランチの日」を実施する学校（小・中学校）	A
6 小児生活習慣病二次検診受診者（有所見児童）における受診後の改善・改善傾向の児童数の割合（小学生）	B
7 食に関する年間指導計画を作成している学校の割合（小・中学校）	A
8 健康教育研修会の参加者数（小・中学校）	A
9 キャリア教育のカリキュラムを作成している学校の割合（小学校）	A
10 サンクリスタル学習参加校数（小学校）	A
11 暴力行為の発生件数（小・中学校）	A
12 いじめ発生件数（小・中学校）	A
13 不登校に関する教員研修の参加者数	A
14 適応指導教室の児童・生徒の学校復帰率	A
15 フレンドシップ事業の参加者数	A

【事務局評価】

中学生の「保健体育の授業が楽しい」と答えた生徒が、全国平均を上回っており、授業の工夫の成果が表れていると評価できる。

「マイ・ランチの日」については、全小・中学校での実施が達成できており、家庭との連携を図ることで、家庭と学校において食育の重要性について理解が深まることを期待したい。

スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの適切な配置により、暴力行為、いじめ問題の未然防止や解決が図られており、発生件数が低い水準で推移している。

【今後の課題】

目標値を達成していない項目について、取組みや実施方法を見直し、効果的な方策を検討する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・学校、家庭、地域、関係機関等、それぞれの不断の取組みと連携強化によって、基本計画策定当初は改善困難とさえ思われた暴力、いじめ、不登校などの教育課題も大いに改善された。子どもの学ぶ意欲や自己肯定感を高め、人間形成を支援する諸施策に継続的に取り組まれない。
- ・「運動に苦手意識を持つ」と回答した児童生徒の割合は全国平均より高い一方で、「保健体育の授業が楽しい」と回答した中学生が全国平均を上回るという結果は、授業の工夫の成果の表れとして高く評価できる。子どもたちの運動習慣の形成、体力の向上につながることを期待したい。不登校やいじめなどへの対応については計画どおり進行し、理解が深まっているといえる。さらに、広い視野から社会や職業について、身近な大人から学ぶキャリア教育の充実は、問題に躓かない、問題行動に走らない、子どもの人生の礎石となると期待する。
- ・規則正しい食が、子どもたちの学力・体力・健康に与える影響の重要性を高松市PTA連絡協議会など保護者と連携し、家庭教育推進事業などを活用し、全ての保護者に対し、周知・啓発をお願いしたい。今後も、スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー・適応指導員などと連携し、子どもたちの問題行動に対処してほしい。

小学校での英語教科化に伴い、ALTの増員・授業時数の増加・確保が必要に思われる。

地域と連携したキャリア教育の推進をしてはどうかと思われる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	「ありがとうの日」を実施する学校（幼稚園、小・中学校）
主管課	学校教育課、こども園運営課
事業内容	周りの人々とのかかわりや日々の生活に感謝し、自分たちの生活をより潤いのあるものにしていこうとする心情を高める場を、教育活動の中に位置付ける。

平成 26年度実施内容

思いやりと感謝の心を持って、周囲に応えようとする心情を高める場として、各学校・園の実情に合わせて、あいさつ運動や、掃除教育等と結びつけて取り組んだ。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
小・中学校 —	全学年で実施 40校、一部の学 年で実施10校	全学年で実施 40校、一部の学 年で実施10校	全学年で実施 40校、一部の学 年で実施10校	全校	全校	全校	A
幼稚園 —	29園（全園）	30園（全園）	30園（全園）	30園（全園）	30園（全園）	全園	

【評価】

家庭や地域と連携協力し、地域ぐるみで子どもを育てる活動の一環として、あいさつ運動や掃除教育と関連させた実践が定着してきている。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

周りの人々との関わりや日々の生活に感謝し、自分たちの生活をより潤いのあるものにするために、あいさつ運動や掃除教育と関連させたり、積極的な情報発信をしたりするなど、家庭や地域との連携をさらに深めていく工夫を図り、感謝する心や規範意識を育みたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	外国語指導助手（ALT）によるチーム・ティーチングの実施回数（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	各学校にALTを派遣することにより、中学校英語教育及び小学校外国語活動等の充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図る。

平成 26年度実施内容

生きた英語に直接触れる機会を拡充し、中学校英語教育および小学校外国語活動、小学校英語教育の充実を図るとともに、国際理解教育の推進を図るために、ALT 2 2名を全小・中学校に派遣した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
中学校全年 週 0.5 回	中学校全年 週 0.5 回	小学校5・6年 週 0.3 回 中学校全年 週 0.7 回	小学校5・6年 週 0.5 回 中学校全年 週 0.7 回	小学校5・6年 週 0.7 回 中学校全年 週 0.5 回	小学校5・6年 週 0.7 回 中学校全年 週 0.7 回	小学校5・6年 週 1 回 中学校全年 週 0.5 回	B

【評価】

本市の英語教育および国際理解教育を推進するために、ALTは重要な役割を果たしている。小・中学校の英語教育担当者間等での連携を密にし、中学校に配置されているALTを、小学校の授業で効果的に活用したり、各種行事等に参加させたりすることが必要である。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

ALTの配置は、児童生徒が英語によるコミュニケーション能力を身に付け、国際理解を深める上で有効であり、今後も配置の充実に努めるため、小・中学校間でのさらなる連携が必要である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
主管課	保健体育課
事業内容	全国的な子どもの体力の状況を把握・分析することにより、各学校においても児童生徒の体力・生活習慣・食習慣・運動習慣を把握し、学校における体育・健康に関する課題・指導等の改善を図る。

平成 26 年度実施内容

小学校第5学年、中学校第2学年の全児童生徒を調査対象として、実技に関する調査小・中各8項目、運動習慣・生活習慣・食習慣等の質問紙調査を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
(小)男子53.9点	(小)男子54.3点	—	(小)男子55.0点	(小)男子54.1点	(小)男子53.1点	(小)男子56.0点	B
(小)女子54.6点	(小)女子54.2点		(小)女子55.7点	(小)女子54.2点	(小)女子54.4点	(小)女子57.0点	
(中)男子42.4点	(中)男子43.4点		(中)男子43.3点	(中)男子42.7点	(中)男子41.4点	(中)男子44.0点	
(中)女子50.2点	(中)女子48.8点		(中)女子51.2点	(中)女子49.6点	(中)女子48.7点	(中)女子51.5点	

【評価】

小学校に対しては、「こつ伝授第4集～体力・運動能力向上編～」及び「1校1運動」の成果や取組状況を集約し、ホームページに掲載して情報提供することで、各校において体力向上を図っている。また、中学生の「保健体育の授業が楽しい」と答えた生徒は、男女ともに全国平均を上回っており、日々の授業の工夫の成果が表れている。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

筋力・持久力が必要な種目が低水準であり、「運動がやや苦手・苦手」と答えた児童の割合や「運動がややきらい・きらい」と答えた生徒の割合が全国平均より高いことから、運動に対して苦手意識を持ち、あまり運動を行わない児童生徒が増えていることが考えられ、運動習慣を改善する取組を、家庭と連携して継続して行うこと、また、小学生においては、低学年での運動の機会を増やし、運動量を確保することが課題である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	1 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	朝ごはんを食べている子どもの割合（小学校6年生）
主管課	生涯学習課
事業内容	子どもたちの望ましい基本的生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるため、就学时健康診断実施時等多くの保護者が集まる機会をとらえて、「早寝早起き朝ごはん」運動の普及啓発に取り組む。

平成 26年度実施内容

次年度に小学校へ入学する子どもたちの保護者を対象とした就学时健康診断や入学説明会、市立幼稚園における授業参観日等を活用し、子育てに関する専門の講師による「子育て力向上応援講座」や生涯学習課職員による啓発活動を実施したほか、新たに、小・中学校の児童生徒を対象に「生活リズムチェックシート」を配布し、自らの生活習慣を見直す機会を提供するなど、朝ごはんの摂取率の向上に努めた。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
87.0%	88.3%	*86.0%	86.9%	87.1%	87.0%	100%	B

*H23年度は東日本大震災のため、全国学力・学習状況調査が実施できなかったことから、香川県学習状況調査のデータを採用した。

【評価】

上記の値は、毎日食べている子どもの割合で、どちらかといえば食べている子どもの割合を合わせると95.6%で、全国平均の96.0%とほぼ同じ結果となるものの、「早寝早起き朝ごはん」運動の推進は、子どもの学力や学校における活動力の向上に欠かせないものであり、朝食の摂取は、家庭の協力が必要不可欠であることから、今後も、保護者が集まる機会を捉えて、目標達成に向け、繰り返し周知・啓発に努める必要がある。

【目標達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

目標値の達成については、家庭を取り巻く経済的な事情や複雑な環境等により、困難である。

「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に当たり、保護者が集る機会を欠席する保護者に対し、今後、どのような周知・啓発に取り組むか、検討する必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	1 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	「マイ・ランチの日」を実施する学校（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	子どもたちへの「食」に対する指導を充実するため、食に関する年間計画の中に、子どもたちがお弁当を作る「マイ・ランチの日」を位置づけるなど、食育の充実を図る。

平成 26年度実施内容

土曜日の学習参観や校外学習などの機会を捉えて、家族とともに自分で作った弁当を持参するなど、各校の実態に即した取り組みが、全小・中学校校で「マイ・ランチの日」として実施された。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
—	75%	79%	93%	全校	全校	全校	A

【評価】

校長研修会等での指導により、「マイ・ランチの日」は全校に定着しており、各学校の実情に合わせて、工夫した取り組みが実践されている。

各家庭の事情にも配慮しながら、栄養教諭による指導とあわせて、健康な体をつくることに関心をもたせ、家庭との連携のもと、家庭や学校における食育の重要性について理解を深める必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

各学校や児童生徒、保護者の実態に合わせて実施できるように、それぞれに適した複数のコースを設定して実施する。小・中学校の栄養教諭や給食担当が参加する研修において、食育と「マイ・ランチの日」についての年間指導計画等の確認を行う。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	1 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	小児生活習慣病二次検診受診者（有所見児童）における受診後の改善・改善傾向の児童数の割合（小学生）
主管課	保健体育課
事業内容	小児生活習慣病検診を実施し、児童生徒の生活習慣病につながる健康状態の実態を把握するとともに、保護者も生活習慣病に関心を持ち、学校・家庭が一体となって、予防に努めるよう推進する。

平成 26 年度実施内容

高松市立の全小学校 4 年生のうち、希望者に検診を実施。
高松市立の全中学校 1 年生のうち、肥満度・腹囲などから対象者を抽出し、そのうちの希望者に検診を実施。

【結果】小学校二次検診受診者の改善率

実績値						目標値	進捗度
H19	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
40%	35.7%	40.4%	39.3%	44.3%	39.4%	42%	B

【評価】

二次検診受診者の改善率が小学校 40%程度、中学校 50%程度と一定の成果は現れており、小児生活習慣病の早期発見につながるほか、軽度の所見があった者については、生活習慣を見直すことで、肥満傾向の解消や症状の進行を抑制するなど効果がみられる。

また、検診を実施することで検診対象学年以外の学年においても、発達段階に応じた生活習慣病予防指導を実施している学校が増えるなど、保健指導の充実及び保護者への啓発につながっている。今後も、小・中学校の連携した取組みの充実や保健指導対象者の継続管理につながることを期待できる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

中等度肥満以上の児童の肥満状態の固定化が懸念されるものの、ここ数年、肥満傾向児童の割合は減少している。更なる減少に向けて、軽度肥満解消と中等度肥満以上の者の肥満傾向の改善を推進するため、有所見者の個別指導を更に充実させる取組を推進する。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	食に関する年間指導計画を作成している学校の割合（小・中学校）
主管課	保健体育課
事業内容	子どもたちが食について計画的かつ効率的に学ぶことができるため、各学校で作成している年間指導計画等の状況を把握することにより、各計画との整合性を図りながら食育の推進を図る。

平成 26年度実施内容

各学校で作成している年間指導計画の作成状況を把握し、各計画との整合性を図りながら食育の推進を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
小学校 90.4%	98.0%	100%	100%	100%	100%	100%	A
中学校 91.7%	95.7%	100%	100%	95%	100%	100%	

【評価】

子どもたちの豊かでたくましい心身の発育を促すため、年間指導計画等を活用することにより、学校等と連携しながら、継続的に食育推進の充実に努める。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

年間指導計画等について、各学校に指導助言を行いながら計画作成についての理解を深め、今後も継続して実施する。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	健康教育研修会の参加者数
主管課	保健体育課
事業内容	講話や事例研究などにより、喫緊の課題となっている健康教育における教職員の指導力向上を図る。

平成 26 年度実施内容

<平成26年度高松市健康教育研究大会>

表彰 高松市特色ある健康づくり実践学校、高松市学校保健功労者
研究発表

「自ら進んで健康づくりに取り組む子どもの育成」

高松市立高松第一小学校 保健主事 白川 由美 養護教諭 廣瀬 智子

「進んで健やかな体づくりに取り組む児童の育成」

— 自分をパワーアップする場の設定 —

高松市立木太南小学校 保健主事 大橋 けい子 養護教諭 河田 美穂

「健康教育推進を目指した教員の資質能力向上の取組」

高松市立国分寺中学校 養護教諭 橘 和代 養護教諭 滝 あい

講演 演題 「学校における色覚検査と色覚バリアフリー」

講師 香川県眼科医会 福田 紹平 医師

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
124人	123人	116人	106人	107人	125人	全ての 小・中学校から 2人以上	A

【評価】

養護教諭等、学校保健関係職員の関心の高い事柄について、さまざまな機会にリサーチし、学校現場のニーズが高いテーマの講話・演習の設定を行うなど、研修会の内容に反映させる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

研修会の内容を今日的で多方面なものとするほか、演習などの体験やグループ討議を行うことにより、養護教諭のみに限らず、学校保健に従事する保健主事など保健関係職員が意欲的に参加できるように工夫し実施する。講演は、社会的問題となっている等、参加対象者の関心の高い健康課題やテーマを把握し、講演内容に反映することを今後も、心掛けたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	1 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	キャリア教育のカリキュラムを作成している学校の割合（小学校）
主管課	学校教育課
事業内容	広い視野から社会や職業について学ぶ機会を持てるよう、キャリア教育の視点からカリキュラムを見直す。

平成 26年度実施内容

キャリア教育の全体計画及び年間指導計画に基づき、保護者や地元企業などの協力を得て、発達段階に応じて、地域の職業調べや、ものづくりなどの体験活動などを実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
65%	71%	87%	87%	92%	92%	100%	A

【評価】

小学校においても、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画が作成され、これらの計画に基づいてキャリア教育が実践されるようになってきている。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

各学校のキャリア教育の目標のもと、発達段階に応じたキャリア発達が促されるよう、身に付けさせたい能力や態度を確認して年間指導計画の見直しを行い、学校の教育活動全体を通じてキャリア教育に取り組み、地域・家庭とも連携して、しっかりとした勤労観・職業観の形成・確立を図る必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	サンクリスタル学習参加校数（小学校）
主管課	文化財課
事業内容	市内小学校の高学年を対象に、サンクリスタル高松の機能を活用し、中央図書館、菊池寛記念館、歴史資料館の3館での体験学習を実施する。

平成 26年度実施内容

サンクリスタル高松の中央図書館、菊池寛記念館、歴史資料館の3館が連携して、図書館の活用方法、菊池寛についての文学学習、また高松の郷土史について体験学習を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
36校	31校	38校	34校	36校	36校	35校	A

【評価】

小学校の統合がある中で、参加校はほぼ横ばいで推移している。
26年度から午後に屋島の現地学習を取り入れる新たな取り組みを始めた。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

参加校が例年同じなので、不参加校に参加の呼びかけを行っていく必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	暴力行為の発生件数（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	暴力行為などの問題行動等について、家庭、地域、学校および関係機関が連携し、未然防止及び解消・解決に向けて、スクールソーシャルワーカー等を活用するなど、生徒指導の充実を図る。

平成 26年度実施内容

「高松市スクールソーシャルワーカー配置事業」を実施し、中学校23校に9名のスクールソーシャルワーカーを配置し、配慮が必要な生徒に対して、学級担任と家庭訪問を行うなど具体的な対策を立て、組織的に取り組んだ。また、「児童生徒問題行動等対応マニュアル」を活用した「問題行動等に関する課題解決研修会」（初任者研修、教職10年経験者研修等）を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
570件	527件	298件	225件	207件	224件	20年度の70%程度	A

【評価】

スクールソーシャルワーカーの専門的な知識や技術を活用し、児童生徒が置かれた様々な環境に働きかけたり、関係機関等のネットワークを活用したりして問題解決に取り組み、効果をあげた。

各学校において、生徒指導の教育的な機能を生かし、学校の教育活動全体を通して、暴力行為等の未然防止と解決に組織的に取り組むことが必要である。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

スクールソーシャルワーカー等の人材の有効活用と、対応マニュアルの学校での積極的な活用、研修会の充実を今後も継続的に図りたい。

暴力行為等の問題行動の背景として、家庭における問題も考えられることから、「福祉の専門家」であるスクールソーシャルワーカーの配置日数・時間の増加が今後も望まれる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	いじめ発生件数（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	いじめや不登校等の重大性を認識し、正確かつ迅速な状況把握と早期解決に向けて小学校の教育相談体制の充実を図り、児童へのカウンセリングや、教職員、保護者への専門的助言・援助、教員等に対する事例研究への参画、専門機関への紹介等、スクールカウンセラーの効果的な活用を図る。

平成 26年度実施内容

「心の専門家」であるスクールカウンセラーを、全小・中学校へ、「福祉の専門家」であるスクールソーシャルワーカーを全中学校へ配置した。教育委員会にいじめ相談専門員を配置し「電話・来庁による教育相談」を実施し、児童生徒や保護者からのいじめなどに関する相談を受け、問題の解消や改善、解決を図るための方法を探るとともに、学校や関係機関などとも連携を行った。

また、全小・中学校で「強めよう絆」月間を設けて、児童生徒のよりよい人間関係づくりの促進に努めるとともに、家庭や地域に取組を発信した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
314 件	186 件	118 件	110 件	75 件	110 件	20 年度の 80%程度	A

【評価】

各校の相談件数は増加しており、個に応じた対応、迅速な対応のため、組織的な指導体制の充実と、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置日数・時間の増加が今後も望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、いじめ問題の早期発見・早期対応や未然防止に努めており、発生件数は平成 24 年度と同じである。

「強めよう絆」月間も全小・中学校に定着しているが、内容の更なる充実に努める必要がある。

また、目標値について、平成 26 年度分の集計から、文部科学省の指導により、いじめの認知に係る規準が改めて示されたことから、平成 25 年度分までの集計結果と比べて件数が増加することとなった。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	1 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	不登校に関する教員研修の参加者数
主管課	総合教育センター
事業内容	不登校及び不登校傾向にある子ども理解と対応の仕方について、講話や演習等を通して実践的な指導力の向上を図る。

平成 26年度実施内容

「問題行動等に関する課題解決研修」として、大学教授による講話や、市教委担当指導主事による不登校の現状についての報告、不登校児童生徒の見取りについての演習を行った。学校の実態に基づく事例についての研究協議を位置付け、参加者相互の実践的な指導力が高まるよう、参加・体験型の研修となるよう工夫し、実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
55人	106人	159人	187人	333人	236人	200人	A

【評価】

参加者の学校における立場や経験等に応じて研修内容・方法を工夫し、実施できた。

今後とも、これまで以上に教職員や学校、児童・生徒の実態に応じた研修が実施できるよう、研修内容・方法・形態等の工夫・改善等に取り組みたい。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

不登校に関する事例研究など参加・体験型研修をさらに充実させることで、目標が達成できた。学校現場での具体的な取り組みに生かせる魅力ある研修を工夫することで、実績の向上を図りたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	適応指導教室の児童・生徒の学校復帰率
主管課	総合教育センター
事業内容	不登校児童生徒が自分を見つめ直し、自分らしさを取り戻し、自分の未来を切り開けるように、一人一人に応じた適応指導を行うことにより、学校復帰を支援し、社会的自立を図る。

平成 26年度実施内容

通室児童・生徒が意欲を高めたり、自尊感情を高めたりできるような、造形活動などの体験的な活動を実施した。また、学習習慣の定着や基礎学力の向上を図るため、コンピュータを用いた学習支援システムの活用をうながしたり、支援員等と一緒に問題を解いたりしながら、支援や賞賛の声かけを行った。また、学校や家庭、カウンセラーとの連携を図り、学校復帰に向けた支援を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
34%	38%	44%	45%	48.5%	51.9%	50%	A

【評価】

多様化する不登校の原因に対応する為、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等を目指した諸活動の企画・運営が実施された。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

多様な活動等の実施により目標は達成された。今後、家庭との連携を深め、効果的な支援が行えるように、相談の機会を広げ、家庭への支援を強化する等、学習や生活、心理的支援を充実していく必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	2 豊かな心と体を育てる教育の推進

施策目標の項目	フレンドシップ事業の参加者数
主管課	総合教育センター
事業内容	不登校及び不登校傾向にある児童生徒の人間関係づくりや社会性・自立心の育成を目的として、体験活動を実施する。

平成 26年度実施内容

平成 26 年 8 月 1 日「さぬき市みろく自然公園」、26 年 10 月 24 日「琴平町金毘羅宮等」、26 年 12 月 10 日「総合教育センター」において体験活動を実施した

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
86 人	98 人	147 人	126 人	78 人	152 人	120 人	A

【評価】

子どもの興味や関心の高い、オリエンテーリング、創作活動等を計画することにより、多くの子どもが本事業に参加し、友達や置籍校教員との人間関係を深め自己存在感を高めることができた。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

子どもが興味や関心のある活動を取り入れるとともに、置籍校の教員が参加しやすい時期での開催計画を実施し、目標を達成した。校長研修会等の機会を捉え、周知を広く行うことで、さらなる実績向上も見込まれる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

I 学校教育の充実

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
3 教員の資質向上と教育指導体制の充実	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 校務用コンピュータの整備率（小・中学校）	A
2 教職員研修講座の参加者数	A
3 教育センターの整備	B

【事務局評価】

校務用パソコンがすべての教員に整備され、セキュリティ対策や事務の負担軽減が図られているが、今後も適切な機器保守・更新に努めることで、現状の維持を期待したい。

【今後の課題】

保護者対応や事務負担の増加等で教員の多忙化は課題となっており、今後、その解消に向け、効果的な方策をさらに検討していく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・総合教育センターが整備され、教職員研修の一元化と研修内容の充実が進んでいる。教職員の専門性向上を支援し、多忙な業務の円滑化・簡素化を進める施策に取り組むことで、教職員が子どもたちと向き合える時間を確保拡充したい。
- ・市の内部での研修の一体化、県との共催という制度面の改善、内容の充実で質量ともに計画は達成されたと評価できる。資質の向上と個々のライフステージに応じた充実した職業活動によって、教職員が子どもたちのロールモデルとなれるよう、更なる充実を期待したい。
- ・今後も引き続き各種研修に多くの教員の方々に参加してほしい。また、研修会の日程については、子どもたちの教育に影響が出ないよう配慮してほしい。
校務用パソコンの使用に対し、全ての教職員のモラル、取扱い上注意の徹底並びに、使用者の質の向上も合わせてお願いしたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	3 教員の資質向上と教育指導体制の充実

施策目標の項目	校務用コンピュータの整備率（小・中学校）
主管課	総合教育センター
事業内容	地域イントラネット・校内LANの活用促進のため、教員一人に一台の校務用パソコンを整備する。

平成 26年度実施内容

個人所有パソコンの使用を抑制するため、平成24年度に教員一人一台の校務用パソコンの整備を達成後、継続・更新を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
0%	48%	75%	100%	100%	100%	100%	A

【評価】

教職員数や学級数の変動に対応し、円滑な機器更新や技術革新への対応を図る必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

目標は達成済であるが、時代に応じた整備機器台数の確保とネットワークも含めた機器保守・更新に努めたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	3 教員の資質向上と教育指導体制の充実

施策目標の項目	教職員研修講座の参加者数
主管課	総合教育センター
事業内容	教職員のライフステージに応じるとともに、時代に即した教育課題を取り上げ、教職の専門性や実践的な指導力の向上を図る。

平成 26年度実施内容

学校教育課との研修の一元化により、県との共催を含め、34 の研修講座を実施した。講演、講話だけでなく、協議、発表、演習、模擬授業など、参加体験型の研修となるよう努めた。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
816 人	983 人	2,220 人	2,038 人	2,283 人	2,785 人	2,500 人	A

【評価】

受講者が増えるとともに、内容についても充実を図ることができた。教員に求められる教育課題への対応力や専門性も異なることから、今後も、常に最新の情報や技術が得られるように、研修内容を精査しながら、実践的な指導力の向上に資する専門研修（研修講座）の実施が望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

目標は達成され、研修についても良好な評価を得ていることから、各学校への広報の在り方や、より参加しやすい研修日程等環境設定が今後の課題として挙げられる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	I 学校教育の充実
施策の基本的方向	3 教員の資質向上と教育指導体制の充実

施策目標の項目	教育センターの整備
主管課	総合教育センター
事業内容	教職員の資質向上や教育の情報化の推進、学校内外における教育相談の充実を図るために、新塩屋町小学校の跡地・跡施設に適応指導教室「新塩屋町 虹の部屋」を併設した、教育センターを整備する。

平成 26年度実施内容

新塩屋町小学校の跡地・跡施設改修による、総合教育センターの整備として、北棟の解体および跡地の整備方法について建築課や地域の意向について検討し、実施設計を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
0%	電気設備 3%	100%	100%	100%	100%	整備	B
	機械設備 3%	100%	100%	100%	100%		
	建築 12%	75%	75%	80%	80%		

【評価】

総合教育センターの整備は実施設計に基づく、予定に沿った進捗状況である。周辺地域の意向や財政状況も視野に入れながら、今後予定されている北棟撤去等の整備を進めたい。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

改修整備の実施設計に基づき、計画的な北棟の撤去等改修工事の手順が推進され、目標達成に向けて順調に推移している。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

II 学校教育環境の整備

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
1 学校教育施設の整備	B	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 学校施設耐震化率（幼稚園、小・中学校、高等学校）	A
2 給食場半ドライシステム化整備率（小・中学校）	C
3 校庭の芝生化を実施した学校（幼稚園、小学校）	A,B

【事務局評価】

給食場の半ドライシステム化は、整備が進んでいない。財政的な要素が大きい部分はあるが、施設の老朽化対策と併せて、総合的に判断の基、効率的に進める必要がある。

【今後の課題】

校庭の芝生化については、児童の体力向上に有効であることから、推進していく必要があるが、維持していくためには地域の協力も不可欠であることから、学校・地域の連携し、協働できる体制作りが必要である。

【学識経験者の意見】

- ・施設耐震化は実現したが、その他の面での安全性向上についても点検整備を進めてほしい。安全な給食や食の教育を推進するとともに、子どもたちの健やかな心身発達に資するように教育環境の整備を様々な視点観点から進めてほしい。
- ・学校給食施設の整備・改修等を始め、総合的な判断の下、引き続き学校教育施設の整備を進められたい。
- ・耐震に対する対応は概ね完了しているようだが、校舎の老朽化による改築なども考えてほしい。給食場の半ドライ化は数年前よりの懸案事項であり、早急に進めてほしい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	1 学校教育施設の整備

施策目標の項目	学校施設耐震化率（幼稚園、小・中学校、高等学校）
主管課	総務課、高松第一高等学校、こども園運営課
事業内容	耐震診断の結果、耐震性能が確保されていない学校施設について、生徒の安全を確保するため、耐震補強等施設の耐震化を図る。

平成 26年度実施内容

小・中学校について、第2期工事として、紫雲中学校柔剣道場・プール及び山田中学校校舎棟の改築工事を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
幼稚園 68.8%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	A
小・中学校 69.8%	96.5%	98%	98.8%	98.8%	98.8%	100%	
高等学校 50%	64.3%	100%	100%	100%	100%	100%	

【評価】

小・中学校については、一部繰越事業があったものの、概ね計画どおり進捗している。今後においても、引き続き第2期工事の効率的・効果的な実施が適当である。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

平成27年度中に山田中学校の耐震化が完了することで、目標達成となる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	1 学校教育施設の整備

施策目標の項目	給食場半ドライ化整備率（小・中学校）
主管課	保健体育課
事業内容	学校給食調理場における衛生面及び作業効率の向上を図る。

平成 26年度実施内容

平成 26 年度においては整備実績なし。
（実績値については、調理場数の減少により変動あり）

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
10.25%	10.25%	10.80%	10.80%	11.11%	11.11%	40%	C

【評価】

財政上厳しい中ではあるが、今後も安心して安全な学校給食を提供していくため、衛生管理の徹底・調理器具の機能の向上などの改修を計画的に進めていく。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

学校給食調理場の老朽化などと併せて、総合的に判断し、高松市学校給食調理場整備指針に基づく学校給食施設の整備・改修、統廃合等を進めていく必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	1 学校教育施設の整備

施策目標の項目	校庭の芝生化を実施した学校（幼稚園、小学校）
主管課	総務課、こども園運営課
事業内容	みどり豊かな教育環境を整備するため、校庭の一部を芝生化するなど学校施設の緑化を進め、環境に配慮した学校施設を目指すとともに、次代を担う児童の運動・体力不足を解消し、たくましく心豊かな子どもたちの育成をはかる。

平成 26年度実施内容

小学校において、古高松小学校他 1 校の芝生化を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度	
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27		
幼稚園	—	4 園	5 園	5 園	5 園	5 園	A	
小学校	—	2 校 (11%)	4 校 (22%)	6 校 (33%)	10 校 (55%)	12 校 (66%)	18 校 (100%)	B

【評価】

現在、実施している校庭の芝生化は、モデル校において、概ね計画どおりの成果が得られていることから、今後も地域や保護者と連携し、校庭芝生化などの緑化を進める。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

芝生の維持管理については、地域とともに実施するなど、学校現場と地域が一体になって協働して行くことが必要である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

II 学校教育環境の整備

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
2 教育機能と就学支援の充実	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 学校図書館図書標準を達成した学校の割合（小・中学校）	A
2 情報教育に関する校内研修を実施する学校の割合（小・中学校）	A

【事務局評価】

適切な予算配分による図書資料の充実により、学校図書館図書標準が維持されており、評価できる。

【今後の課題】

様々な分野で情報化が進展する中、情報教育の重要性は高まっており、教員への情報に関する研修を充実により、子どもへの適切な情報教育が実施されることが必要である。

【学識経験者の意見】

- ・学校図書館は子どもたちが主体的な学習を展開できる重要な場であり、一層の質的・量的整備拡充を図ってほしい。子どもたちを取り巻く情報化社会の現状には厳しいものがあり、教職員の情報リテラシー向上につながる研修や施策の充実を期待する。
- ・学校図書館図書標準の維持とともに、学校教育における学校図書館の重要性に鑑み、更なる資料の充実及び利用の活性化を期待したい。
子どもの情報アクセス能力が想像以上の展開を見せている現在、情報を効果的に活用する能力とともに、情報セキュリティを始め、情報管理能力を高める取組みを継続して進められることを期待する。
- ・情報教育の推進は急務であり、低学年よりの指導も必要であると考えます。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	2 教育機能と就学支援の充実

施策目標の項目	学校図書館図書標準を達成した学校の割合（小・中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	高松市子ども読書活動推進計画に基づき、読書・学習・情報センターとして学校図書館図書資料の充実を図る。

平成 26年度実施内容

各小・中学校の学校図書蔵書数に基づき計画的に予算配分を行い、図書資料の一層の充実を図った。また、学校図書館指導員を中心に、学校図書館の効果的な運営を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
小学校 48.1%	69.4%	71.4%	100%	95.9%	96.0%	100%	A
中学校 58.3%	65.2%	63.6%	100%	100%	95.7%	100%	

【評価】

学校図書館指導員を中心に、児童生徒にとって魅力ある図書館として運営されており、読書活動のみならず、授業での調べ学習の推進に効果をあげている。

学級数の増減を見通した予算配分を実施することで、全ての学校で学校図書館図書標準を維持したい。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

学級数の増減を見通した予算配分と、廃棄計画の適正化により学校図書館図書標準を維持しつつ、学校図書館図書資料の充実を図る。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	2 教育機能と就学支援の充実

施策目標の項目	情報教育に関する校内研修を実施する学校の割合（小・中学校）
主管課	総合教育センター
事業内容	情報教育に関する研修講座やT E N S取扱責任者研修会を通して、校務や授業における機器等の効果的な活用や危機管理意識の向上、児童生徒に対する情報教育の充実を目指した校内研修を積極的に実施できるよう支援する。

平成 26年度実施内容

情報教育に関する研修講座やT E N S取扱責任者研修会を通して、校務や授業における機器等の効果的な活用や危機管理意識の向上、児童生徒に対する情報教育の充実を目指した校内研修についての支援を実施した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
26%	87%	92%	92%	93%	98%	100%	A

【評価】

情報教育に関する研修会等を通して、校務や授業における機器等の効果的な活用や危機管理意識の向上、児童生徒に対する情報教育の充実を目指した校内研修を実施している学校が増加した。個人情報の適切な管理・運用に関しても、周知徹底を図る研修の充実が望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

実績は概ね予定通りに推移している。今後、校務や授業における機器等の効果的な活用や、情報セキュリティに関する研修について、各学校での研修内容等の実態をつかみ、支援を行うことにより目標の達成が見込まれる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

II 学校教育環境の整備

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
3 家庭・地域との連携	B	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 学校サポート委員会の平均実働回数（中学校）	C
2 放課後子ども教室実施校区数（小学校）	B
3 地域の行事に参加する児童・生徒の割合（小学校5年生、中学校2年生）	B, A

【事務局評価】

地域との連携については、放課後子ども教室の実施校区数が増えているものの、未実施の校区もあることから、十分な状況とは言えない。

アンケート調査結果からは、地域の行事に参加する児童・生徒の割合は増加傾向にあり、さらに増加するよう努めていきたい。

【今後の課題】

校内・校外の各種団体の連携を深めることで、子どもの健全育成の充実を更に図っていく必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・地域社会が有する教育力を学校教育に活かすために、連携を図り、放課後子ども教室が開設されてきた。様々な形で学校・家庭・地域の交流・連携協力を進めることにより、子どもたちの健やかな成長が促されるとともに、学校が地域の社会的活動拠点としての役割を担っていることを評価している。
- ・放課後子ども教室開設校区の数が伸び悩みを示すのは、計画当初とは異なる社会情勢、地域状況が関与していると思われる。放課後のこどもの安全で安心な居場所として何が求められ、何がふさわしいのかを再検討する時ではないかと思われる。
- ・家庭・地域と連携を図り、子どもたちの、安全で安心な居場所づくりにより一層取り組んでほしい。併せて、地域などへの啓発・支援もお願いしたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	3 家庭・地域との連携

施策目標の項目	学校サポート委員会の平均実働回数（中学校）
主管課	学校教育課
事業内容	学校サポート委員会を組織し、問題事例等の分析・整理及び効果的な援助・支援を行う。また、学校、地域の環境整備や地域の巡回指導、その他、児童生徒の健全育成に関する啓発活動を行う。

平成 26年度実施内容

各中学校の実態や事例に応じて、サポート委員会を開催し、地域と連携しながら、問題事例の分析や、地域の巡回指導を通して、子どもたちの健全育成を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
—	1校当たり 2.8回/年	1校当たり 2.5回/年	1校当たり 3.0回/年	1校当たり 2.9回/年	1校当たり 2.2回/年	1校当たり 4回/年	C

【評価】

民生委員・児童委員、保護司等の地域の方、警察職員の協力を得て、問題行動等への支援や地域の巡回指導等で効果をあげている。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

サポート委員会の必要度については、学校の実情によって異なっており、特に問題事例等への対応については、本計画策定後に各小・中学校に配置されるようになったスクールソーシャルワーカーの活用やサポート委員による個別の具体的な対応などが多くなっているため、サポート委員会全体としての実施回数は平成24年度以降減少している。

今後、先進校の様子も参考にして、開かれた学校として、地域の教育力を積極的に受け入れ、生かすための方法を検討する場とするなど、活動内容の工夫を図ることが必要である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	3 家庭・地域との連携

施策目標の項目	放課後子ども教室実施校区数（小学校）
主管課	子育て支援課
事業内容	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全で安心な居場所を設け、地域住民の参画を得て、体験活動や地域住民との交流活動等を実施し、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

平成 26年度実施内容

放課後子ども教室を新たに開設した2校区加え、32校区において、子どもたちに様々な活動と安心安全な居場所を提供した。また、放課後子ども教室を含めた放課後対策事業の実施方針、安全管理方針、指導者研修の企画等を行うため、放課後子どもプラン推進委員会を2回開催した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
15校区	23校区	25校区	29校区	30校区	32校区	46校区	B

【評価】

地域の方々の参画を得て子どもたちに安心安全な居場所を提供することにより、児童の健全育成と地域コミュニティの充実に貢献しており、未実施校区における新規開設が望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

この事業は、地域の団体等を中心に設立した運営委員会に委託して実施している。未実施校区においては、コミュニティセンターにおける小学生対象の行事など、それぞれに子どもたちにかかわりを持った活動が行われているものの、人員確保が難しいなどの理由から委託に至らないケースがあるため、未実施校区において、PTA、地域団体、学校関係者等へ事業説明を行い、各関係者の協力による運営委員会の設置を働き掛ける。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅱ 学校教育環境の整備
施策の基本的方向	3 家庭・地域との連携

施策目標の項目	地域の行事に参加する児童・生徒の割合（小学校5年生、中学校2年生）
主管課	総務課
事業内容	アンケート調査により、児童生徒の学習意欲、勤労観、家庭や地域における教育力などの現状を把握することで、地域社会の中で子どもたちを心豊かに健やかにはぐくむ環境づくりに活用する。

平成26年度実施内容

平成26年11月から12月にかけて高松市教育に関するアンケートで調査を行った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
小学5年生 74.6%	—	—	—	—	小学5年生 75.3%	80%	B
中学2年生 42.8%	—	—	—	—	中学2年生 47.4%	45%	A

【評価】

前回調査と比較して、小学5年生、中学2年生ともに、地域の行事に参加する割合がやや改善している。引き続き、その割合の向上を図るための事業を推進し、地域社会の中で子どもたちを心豊かに健やかにはぐくむ環境づくりに努める。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

子どもを中心とした地域交流事業の実施など、学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てる連携体制の構築に努める。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

Ⅲ 家庭教育の向上

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
1 家庭・地域教育の充実	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 早寝早起き朝ごはん運動普及・啓発事業を実施する学校（小学校）	A
2 子育て支援事業、地域との交流活動の参加者総数（幼稚園）	A

【事務局評価】

「早寝早起き朝ごはん」運動は全校で実施され、浸透しているが、保護者が家庭において、子どもの基本的生活習慣、礼儀を育むという本来の役割を果たせるような啓発事業等の推進に努めることが重要である。

【今後の課題】

少子化、核家族化の進行や自治会加入率の低下等により、家庭、地域の教育力の低下が指摘されているが、各活動を実施する上で、より効果的なものにする必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・家庭や地域の教育力を高める多様な取組みがなされてきたが、今後とも継続充実したい。幼稚園を地域の子育ての拠点として位置づける事業は重要であり、人的・財政的支援を拡充してほしい。
- ・家庭・地域への啓発活動は、計画どおり順調に推移しており、取組みの展開、定着は大いに評価できる。今後とも地域の特性や人材、施設等を活用して、子どもの育ちを活性化してほしい。
- ・多様な家庭環境がある中、未就学児保護者に対する基本的生活習慣の重要性を、家庭教育学級などを通じ、啓発、情報の周知の回数を増やしてはどうかと思われる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅲ 家庭教育の向上
施策の基本的方向	1 家庭・地域教育の充実

施策目標の項目	「早寝早起き朝ごはん」運動普及・啓発事業を実施する学校（小学校）
主管課	生涯学習課
事業内容	子どもたちの望ましい基本的生活習慣を育成し、生活リズムを向上させるため、就学時健康診断実施時等多くの保護者が集まる機会をとらえて、「早寝早起き朝ごはん」運動の普及啓発に取り組む。

平成 26年度実施内容

幼稚園・小学校に呼びかけ、次年度に小学校へ入学する子どもたちの保護者を対象とした就学時健康診断や入学説明会、市立幼稚園における授業参観日等を活用し、子育てに関する専門の講師による「子育て力向上応援講座」や生涯学習課職員による啓発活動を実施したほか、「朝ごはんを食べよう」啓発ちらしを作成し、配布するなど、早寝早起き朝ごはん運動の普及・啓発に取り組んだ。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
38校	37校	全校	全校	全校	全校	100%	A

*H22実績値の減は、学校統合のため対象校区数減によるもの。

【評価】

「早寝早起き朝ごはん」運動の推進により、「生活リズムチェックシート」の集計結果では、小学校6年生の「毎日できた」と「まあまあできた」を合わせた率は、「寝た時刻」が74.2%でやや低いものの、「朝ごはん」の97.4%や「起きた時刻」が87.6%という成果が表れている。子どもの学力や学校における活動力の向上に欠かせないものであり、今後とも、保護者が集まる機会を捉えて、繰り返し周知・啓発に努める必要がある。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

目標値は、達成している。「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に当たり、今後、対象施設や回数を拡大するほか、周知・啓発の内容についても、より一層充実する必要がある。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	Ⅲ 家庭教育の向上
施策の基本的方向	1 家庭・地域の教育の充実

施策目標の項目	子育て支援事業、地域との交流活動の参加者総数（幼稚園）
主管課	こども園運営課
事業内容	園庭開放・子育て相談・未就園児の集い・交通安全キャンペーン・世代間交流・地域触れ合い交流などを実施する。

平成 26年度実施内容

園庭開放・子育て相談・未就園児の集い・交通安全キャンペーン・世代間交流・地域触れ合い交流などの実施により、幼稚園を地域に開放し、家庭をいろいろな形で支援した。また、各幼稚園の実施状況や実施予定などが学期毎に閲覧できるように関連HPに掲載し、事業実施の周知をした。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
延べ 59,313人	延べ 46,961人	延べ 79,613人	延べ 87,408人	延べ 77,762人	延べ 79,679人	延べ 65,000人	A

【評価】

本事業のHPで事業の内容や様子を知らせる等、情報発信したことも事業の充実につながっていると考える。今後も地域のニーズに応じた交流や相談の場の提供等を行い、保護者が安心して子育てを進めて行けるよう、地域の特性を生かした取り組みに努めることが重要である。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

園庭開放や園児と未就園児親子の交流活動、子育て情報の提供や子育て相談の機会を、各幼稚園で年間計画に位置付けて計画的に行うことで定着している。今後も取り組みを継続するとともに、地域の自然や人材、施設等を積極的に活用することで、教職員と保護者、地域が連携し、より安心して子育てを進めていけるよう、子育て支援事業の拡充を図る。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

IV 青少年の健全育成

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
1 青少年の健全育成の推進	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 放課後子ども教室実施校区数〔再掲〕（小学校）	B
2 「情報モラルモデルカリキュラム」を活用した、教員研修を実施する学校（小・中学校）	A
3 学級担任による情報モラル教育を年2回以上実施する学校の割合（小・中学校）	A

【事務局評価】

「情報モラルモデルカリキュラム」の活用の拡大や情報モラル教育を実施する学校の割合が9割以上となっているが、情報通信技術の進展は速く、更なる事業の推進に努める必要がある。

【今後の課題】

研修の実施において、教員間で意識や指導力等の差があることから、研修内容を見直すことで、すべての教員に対応できる研修の実施が必要である。

【学識経験者の意見】

- ・放課後子ども教室は子どもたちにおいては、大切な居場所であり、保護者においても安心できる場であるので、地域の理解を得ながら整備充実を図りたい。
- ・世代間の格差が大きくなっている現状で、悉皆の情報モラル教育研修会を開催して、各小・中学校教員の実践的指導力を高めることは有効な手段である。青少年に対する情報モラル教育が日常生活習慣として定着するよう、更に推進されることを期待する。
- ・子どもたちを取り巻く多様な環境において情報教育は最重要課題であり、指導実施回数増加と共に、保護者への啓発・協力も推進してほしい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	IV 青少年の健全育成
施策の基本的方向	1 青少年の健全育成の推進

施策目標の項目	放課後子ども教室実施校区数〔再掲〕（小学校）
主管課	子育て支援課
事業内容	放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全で安心な居場所を設け、地域住民の参画を得て、体験活動や地域住民との交流活動等を実施し、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

平成 26年度実施内容

放課後子ども教室を新たに開設した2校区加え、32校区において、子どもたちに様々な活動と安心安全な居場所を提供した。また、放課後子ども教室を含めた放課後対策事業の実施方針、安全管理方針、指導者研修の企画等を行うため、放課後子どもプラン推進委員会を2回開催した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
15校区	23校区	25校区	29校区	30校区	32校区	46校区	B

【評価】

地域の方々の参画を得て子どもたちに安心安全な居場所を提供することにより、児童の健全育成と地域コミュニティの充実に貢献しており、未実施校区における新規開設が望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

この事業は、地域の団体等を中心に設立した運営委員会に委託して実施している。未実施校区においては、コミュニティセンターにおける小学生対象の行事など、それぞれに子どもたちにかかわりを持った活動が行われているものの、人員確保が難しいなどの理由から委託に至らないケースがあるため、未実施校区において、PTA、地域団体、学校関係者等へ事業説明を行い、各関係者の協力による運営委員会の設置を働き掛ける。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	IV 青少年の健全育成
施策の基本的方向	1 青少年の健全育成の推進

施策目標の項目	「情報モラルモデルカリキュラム」を活用した、教員研修を実施する学校（小・中学校）
主管課	総合教育センター
事業内容	情報モラル教育研修会において、「情報モラルモデルカリキュラム」の活用について実践発表や演習を行い、各小・中学校での教員研修の実施を促す。

平成 26年度実施内容

情報モラル教育研修会において、「情報モラルモデルカリキュラム」の活用について実践発表や演習を行い、各小・中学校での教員研修の実施を促した。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
-	87%	86%	90%	91%	96%	全校	A

【評価】

「情報モラルモデルカリキュラム」について、各学校の研修に生かせるように、学校への周知を拡大することで、活用機会の増加を図ることができた。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

実績が、順調に推移している。「情報モラルモデルカリキュラム」の活用について、さらに先進的な取組をしている事例等を紹介する等、情報関係の研修会の機会に広めることで、目標の達成が見込まれる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	IV 青少年の健全育成
施策の基本的方向	1 青少年の健全育成の推進

施策目標の項目	学級担任による情報モラル教育を年2回以上実施する学校の割合（小・中学校）
主管課	総合教育センター
事業内容	情報モラル教育研修会や校務ICT活用研修講座での著作権についての講話等を通して、教員の情報モラルに関する理解を深め実践的指導力の向上を図ることで、各小・中学校における情報モラル教育の充実を図る。

平成26年度実施内容

悉皆の情報モラル教育研修会を開催し、参加した教員が各校の情報モラル教育を推進できるようにするとともに、改定した情報モラル保護者啓発資料による情報モラル教室を開催し、モラル教育の必要性と教員の情報モラルに関する理解を深め、実践的指導力の向上を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
44%	76%	78%	85%	91%	95%	100%	A

【評価】

研修を通して、参加教員については情報モラルについての知識・理解を深め実践的な指導力の向上を図ることができたが、実施についての意識や指導力等に差があり、幅広い層の教員に対応できる研修の実施が望まれる。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

最近インターネット利用に伴うトラブルの低年齢化が進んでおり、小学校における高学年に比べ、低学年での実践率がやや少ないので、低学年の積極的な利用を促すことで、目標達成が見込まれる。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価

《施策の基本的方向ごとの意見・評価》

◎ 基本目標

V 子どもの安全確保

◎ 施策の基本的方向	進捗度	A：予定通り進行している B：概ね予定通り進行している C：予定よりやや遅れている D：予定より大幅に遅れている
1 子どもの安全対策の推進	A	

○ 施策の基本的方向に連なる目標設定項目

1 PTAへの不審者情報メール配信率の向上（小・中学校）	A
2 学校安全管理研修会の参加者数（幼稚園、小・中学校、高等学校）	A

【事務局評価】

PTAとの情報共有については、メール配信システムの登録者数が年々増加しているが、迅速な情報提供が子どもの安全確保に非常に効果があり、今後も継続していきたい。

【今後の課題】

学校安全管理研修会については、災害への対応・対策が着実に実施できるよう、研修内容を検討し、効果的で実効性のある研修にする必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・学校内外での子どもたちの安全を確保する対策は、地域や関係諸機関の協力連携により充実してきたが、子どもたちを取り巻く社会環境は複雑化しており様々な観点から取り組まれない。
- ・子どもの安全対策について、校区ごとの物理的・人的環境は整えられており、それは日常生活の中で目に見える形になって定着してきている。更には、非日常的な危機に対する危機管理、具体的な危険回避能力の育成などを進めてほしい。
- ・地域住民や保護者との連携強化し、未登録の方々に対しての啓発を進めてほしい。併せて、学校・地域が連携した、情報の共有、並びに、指導もお願いしたい。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	V 子どもの安全確保
施策の基本的方向	1 子どもの安全対策の推進

施策目標の項目	P T Aへの不審者情報メール配信率の向上（小・中学校）
主管課	生涯学習課 少年育成センター
事業内容	不審者情報や学校情報など、多岐にわたる情報を保護者に提供し、次世代を担う子どもたちの成長を支援する高松市P T A連絡協議会のメール配信システムの効果的活用を図る。

平成 26年度実施内容

高松市P T A連絡協議会のメール配信システムを活用し、不審者情報や学校情報など子どもにかかわる情報を保護者等に提供し、子どもの安全確保を図った。

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
89.3%	96.2%	96.2%	96.2%	96.7%	97.3% (H27.1月現在)	95%	A

【評価】

通報により得た不審者情報や学校情報等を、学校、保護者、地域の関係団体等に提供し、情報の共有化を図ることにより、学校や地域等の連携が密となり、地域ぐるみで子どもの安全を確保する体制の確立に成果をあげている。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

携帯電話等の普及により、メール配信システムの登録者は年々増加しており、すでに目標値は達成されている。今後とも、数多く寄せられる不審者情報や学校情報等を、保護者等に速やかに提供できるよう、より多くのP T A会員に対し、高松市P T A連絡協議会が運営するメール配信システムへの加入を促進するとともに、迅速な情報提供を行っていくことが必要である。

教育振興基本計画の施策目標の点検・評価調査表

【教育振興基本計画の施策体系における位置付け】

基本目標	V 子どもの安全確保
施策の基本的方向	1 子どもの安全対策の推進

施策目標の項目	学校安全管理研修会の参加者数（幼稚園、小・中学校、高等学校）
主管課	保健体育課、高松第一高等学校、こども園運営課
事業内容	子どもたちが安全で安心して生活できる学校・地域となるように、各学校における教職員の危機意識の啓発を始め、学校安全についての実効性のあるものに改善を図る。

平成 26 年度実施内容

訓練「災害状況再現・対応能力訓練システムによる災害時対応」
講演「過去の災害から学ぶローテク防災術」

【結果】

実績値						目標値	進捗度
H20	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
延べ 210 人	延べ 235 人	延べ 278 人	延べ 243 人	104 人	103 人	全ての学校・幼稚園から 1人以上	A

【評価】

香川大学危機管理センターが開発した、「災害状況再現・対応能力訓練システム」による災害時対応訓練を行い、また、専門的な知見を有する香川大学危機管理センターの方を講師にお迎えし、教職員の危険回避能力の向上や危機意識の啓発を図ることができた。

今後も、学校現場に有益な研修会となるよう実践的な内容としていく必要がある。参加者が主体的に行える内容とするなど、より一層の充実に努める。

【目標値達成の見込み・目標達成に向けた今後の課題】

学校安全の3領域である、生活安全、交通安全、災害安全に関して対応する中で、東日本大震災以降、地震・津波を含めた災害安全への対応・対策がより一層求められていることから、学校の教育活動全体を通じて取り組むため、教職員の指導力や知識の向上、学校内での共通理解が課題である。

教育施設等の概況

(27. 5. 1 現在)

1 学校等

(1) 市立幼稚園

区分 園名	所在地	面積 (㎡)		学級数	園児数	3歳児入園数 (再掲)	園長			教諭	講師	事務		計
		園舎	敷地				本務	嘱託	兼務			事務	事務	
前田川	前田東町 788-1	691	1,525	3	34	7				3	2			6
	東山崎町 601	969	4,055	3	59	25	1	1		3	5			9
林	林町 1405-4	786	2,288	5	162	59	1			5	7			13
	三谷町 2316-2	520	1,966	3	80	18	1			3	3			7
三香	香西町 59-1	958	3,454	4	94	32	1			3	5			9
	一宮町 1233-2	804	2,144	3	78	19	1			3	4			8
多川	多肥上町 990-2	620	1,702	3	80	22		1		3	3			7
	岡部町 524-3	481	2,017	3	46	11		1		3	3			7
円座	円座町 125-2	571	2,285	3	77	24	1			3	2			6
	檀紙町 776-1	566	2,203	3	78	32	1			3	3			7
弦打	鶴市町 360	546	2,353	3	72	18	1			3	3			7
	鬼無町 佐藤 128-1	593	2,112	3	27	5	1			3	0			4
木太山	木太町 3901-1	991	2,458	5	140	45	1			5	7			13
	川島本町 191-10	531	2,581	3	96	31		1		3	4			8
檀浦	屋島東町 1095-108	526	1,758	2	18	1		1		3	1			5
	春日町 744	582	1,891	3	74	20	1			3	4			8
木太北部	木太町 2604-5	889	2,638	4	105	32	1			4	5			10
	栗山 牟礼町 牟礼 3028	590	1,841	3	74	24	1			3	2			6
田井	牟礼町 牟礼 1243-2	551	2,199	3	32	7		1		3	1			5
	大町 牟礼町 大町 605-1	517	1,564	3	21	6		1		2	2			5
大野	香川町 大野 1331-1	642	2,815	3	57	17	1			3	2			6
	浅野 香川町 浅野 3117	700	2,982	3	51	12		1		3	2			6
川東	香川町 川東 1987-4	678	2,702	3	57	13	1			3	4			8
	国分寺北部 国分寺町 新居 1870-2	1,189	2,991	6	136	40	1			6	8			15
国分寺南部	国分寺町 福家甲 3123-1	1,702	5,645	5	133	35	1			5	6			12
計 25 園		21,270	88,845	85	1,881	555	17	8		84	88			197

(2) 市立小学校

ア 児童・教職員数

区分 学校名	学級数				児童数			教職員数					
	計	単式	複式	特別支援	計	男	女	本務教員数			本務職員数		
								計	男	女	計	男	女
新番丁	27	24		3	756	372	384	37	12	25	2		2
亀阜	27	22		5	635	312	323	50	23	27	5	2	3
栗林	41	36		5	1,149	547	602	57	16	41	4	3	1
花園	16	11		5	269	125	144	20	6	14	2		2
高松第一	27	22		5	653	333	320	43	14	29	4	1	3
鶴尾	11	8		3	175	100	75	22	8	14	5	2	3
太田	30	25		5	835	393	442	44	14	30	7	3	4
木太	20	18		2	534	270	264	30	10	20	5	1	4
古高松	25	22		3	635	329	306	34	12	22	5	2	3
屋高島	19	16		3	473	235	238	30	8	22	5	2	3
前田	12	9		3	229	99	130	21	7	14	4		4
川添	18	15		3	419	192	227	31	9	22	5	2	3
林	25	23		2	759	378	381	39	10	29	4	1	3
三仙溪	15	13		2	373	221	152	22	7	15	3		3
仏生山	22	18		4	497	271	226	30	8	22	5		5
香西	21	18		3	547	286	261	33	10	23	6	3	3
一宮	27	24		3	732	373	359	42	16	26	6	2	4
多肥	37	33		4	1090	579	511	54	16	38	7	2	5
川岡	13	11		2	271	138	133	20	6	14	3		3
円座	30	24		6	733	343	390	42	11	31	8	3	5
檀紙	23	18		5	542	280	262	35	8	27	3		3
弦打	21	19		2	549	298	251	31	12	19	3		3
鬼無	14	12		2	316	167	149	21	6	15	4		4
下笠居	15	12		3	267	140	127	25	8	17	3		3
女木(休校)													
男木	3	2		1	4	2	2	3	2	1	1		1
川島	20	16		4	468	233	235	31	10	21	3	1	2
十河	26	21		5	639	349	290	33	12	21	1		1
東植田本校	6	4	1	1	33	17	16	9	3	6	2		2
分校(休校)													
植田	7	6		1	89	44	45	11	4	7	1		1
中央	35	29		6	920	428	492	48	14	34	9	3	6
太田南	34	30		4	1003	504	499	47	12	35	9	3	6
木太南	26	23		3	704	344	360	38	11	27	4	2	2
古高松南	26	22		4	644	349	295	37	9	28	5	3	2
屋島東	7	6		1	140	68	72	12	6	6	3		3
屋島西	21	18		3	480	232	248	34	14	20	4		4
木太北部	21	17		4	471	224	247	30	7	23	5	2	3
塩江	8	6		2	115	62	53	13	4	9	2		2
牟礼	15	12		3	335	182	153	23	6	17	6	3	3
牟礼北	19	15		4	450	219	231	30	9	21	1		1
牟礼南	13	10		3	238	126	112	18	6	12	1		1
庵治	10	6		4	199	106	93	16	6	10	3		3
庵治第二	1		1		2	1	1	2		2			
大野	18	16		2	441	227	214	28	9	19	2	1	1

区分 学校名	学級数				児童数			教職員数					
								本務教員数			本務職員数		
	計	単式	複式	特別支援	計	男	女	計	男	女	計	男	女
浅野	18	16		2	445	258	187	27	9	18	1		1
川東	15	12		3	357	190	167	23	11	12	3	1	2
香南	15	12		3	392	216	176	25	7	18	2		2
国分寺北部	28	24		4	730	394	336	42	12	30	6	3	3
国分寺南部	26	23		3	729	386	343	36	14	22	5	1	4
計 49 校 1 分校	954	799	2	153	23,467	11,942	11,525	1,424	453	971	188	52	136

イ 小学校施設の現況

学校名	所在地	創立年月	建物面積 (㎡)						敷地面積 (㎡)
			校舎		屋内運動場		給食場		
			木造	非木造	木造	非木造	木造	非木造	
新番丁	錦町 2-14-1	H22. 4		8,132		2,398			13,220
亀阜	亀岡町 10-1	M 5. 4		6,755		950			15,919
栗林	栗林町 2-10-7	M17. 6	113	6,780		909			12,891
花園	花園町 2-7-7	S17. 9		5,097		770			14,876
高松第一	松島町 2-14-5	H22. 4		7,463		1,436			18,098
鶴尾	松並町 636-1	M39. 9		5,435		866			17,903
太田	伏石町 845-1	M30. 4		6,180		1,053			15,657
木太	木太町 3480-1	M19. 9		7,202		1,038		256	19,820
古高松	高松町 398	M 5. 4		6,712		1,052			21,434
屋島	屋島西町 1205-1	M20. 4	23	6,697		1,038			19,622
前田	前田東町 819-3	M20. 4		4,292		879		201	13,722
川添	東山崎町 207-1	M20. 4		6,493		1,050			16,576
林	林町 1108-1	M25. 9		5,973		863		201	13,605
三溪	三谷町 2173-1	M33. 4		3,064		662		162	11,850
仏生山	仏生山町甲 2461	M25. 4		4,816		1,038		201	17,909
香西	香西南町 703-1	M20. 4		5,852		1,066			14,474
一宮	一宮町 672-1	M34. 12	10	6,367		1,050			13,205
多肥	多肥上町 902-2	M25. 4		6,898		863			13,691
川岡	川部町 1552	M20. 4		3,067		863		162	13,974
円座	円座町 1630-2	M20. 4		5,091		845			11,573
檀紙	御麿町 816	M20. 4		4,842		1,050		201	15,331
弦打	鶴市町 374-1	M25. 7		4,955		1,050		201	14,491
鬼無	鬼無町佐藤 607-1	M25. 9		3,721		863		235	13,280
下笠居	生島町 345	M20. 4		4,294		878			14,047
女木(休校)	女木町 236-2	M 5. 4		953		681		45	2,900
男木	男木町 1988	M17. 11		123				45	9,735
川島	川島東町 864-1	M26. 2		4,865		883			11,465
十河	十川西町 366-5	M20. 3		4,943		863			11,063
東植田本校	東植田町 2008	M20. 4		1,741		736			9,371
分校(休校)	菅沢町 339	M45. 4		497		464		45	3,850
植田	西植田町 2337	M18. 9		2,137		642			16,669
中央	松縄町 1138	S49. 4		6,955		845			17,647
太田南	太田下町 1823-1	S51. 4		6,665		1,053			19,290
木太南	木太町 1530-1	S52. 4		6,341		1,053		235	18,218
古高松南	新田町甲 2605	S55. 4		4,943		1,050		202	16,349
屋島東	屋島東町 942-1	S57. 4		2,307		681		162	9,167
屋島西	屋島西町 2469	S58. 4		5,767		933		201	19,732
木太北部	木太町 2613	H 2. 4		5,577		888			16,030

学校名	所在地	創立年月	建物面積 (㎡)						敷地面積 (㎡)
			校舎		屋内運動場		給食場		
			木造	非木造	木造	非木造	木造	非木造	
塩江	塩江町安原上 231 - 1	M26. 5		3,036		1,630			10,493
牟礼北	牟礼町牟礼 2900-1	S51. 4		5,283		860			14,482
牟礼南	牟礼町大町 1115-1	S55. 4		3,448		665			15,876
庵治	庵治町 790-1	M 5.10		4,736		2,344			28,989
庵治第二	庵治町 6034-1	M39. 4		533		522			2,176
大野	香川町大野 1045-1	M 5. 6		4,278		800			17,508
浅野	香川町浅野 3088	M 3. 2		4,713		855			22,805
川東	香川町川東上1865-8	M29. 6		4,440		840			17,563
香南	香南町横井 1008	S39. 4		3,501		727			16,676
国分寺北部	国分寺町新居 1880	M27. 4		5,722		1,262		258	15,874
国分寺南部	国分寺町福家甲3005	M25. 4		6,192		1,215		268	17,538
計 49 校 1 分校			161	239,863		48,033		3,281	741,815

※ 高松第一小学校の敷地は高松第一中学校と、男木小学校の敷地は男木中学校と、塩江小学校の敷地は塩江中学校と併用

(3) 市立中学校

ア 生徒・教職員数

区分 学校名	学級数				生徒数			教職員数						
	計	単式	複式	特別支援	計	男	女	本務教員数			本務職員数			
								計	男	女	計	男	女	
桜町	28	23		5	840	441	399	57	27	30	2			2
紫雲	25	21		4	701	367	334	47	27	20	3	1		2
玉藻	25	21		4	713	352	361	49	30	19	3	1		2
高松第一	12	9		3	314	159	155	26	10	16	2	1		1
鶴尾	6	3		3	63	34	29	23	18	5	1			1
屋島	21	18		3	606	311	295	40	21	19	2			2
協和	20	17		3	544	299	245	40	24	16	1	1		
龍雲	26	23		3	834	430	404	49	22	27	2	1		1
勝賀	22	19		3	693	332	361	45	20	25	3			3
一宮	16	12		4	373	181	192	32	20	12	2			2
香東	23	20		3	723	385	338	44	21	23	3			3
下笠居	9	6		3	162	80	82	23	14	9	1			1
男木	1	1			2	2		4	2	2				
山田	21	17		4	606	286	320	39	22	17	6	6		
太田	25	21		4	753	381	372	46	19	27	3			3
古高松	20	17		3	596	299	297	38	24	14	2	1		1
木太	27	22		5	762	376	386	48	23	25	2			2
塩江	5	3		2	74	40	34	14	8	6	5	2		3
牟礼	14	12		2	400	229	171	29	19	10	2	2		
庵治	5	4		1	91	45	46	14	6	8	2			2
香川第一	20	18		2	659	343	316	42	21	21	11	4		7
香南	10	7		3	234	123	111	22	13	9	4	1		3
国分寺	28	23		5	800	403	397	52	31	21	6	3		3
計 23 校	409	337		72	11,543	5,898	5,645	823	442	381	68	24		44

イ 中学校施設の現況

学校名	所在地	創立年月	建物面積 (㎡)						敷地面積 (㎡)
			校舎		屋内運動場		武道場		
			木造	非木造	木造	非木造	木造	非木造	
桜町	桜町 2-12-4	S22. 5	10	7,388		1,077		350	18,259
紫雲	紫雲町 8-25	S22. 4		8,621		1,862		450	21,955
玉藻	上福岡町 714-1	S25. 2		8,187		2,082			28,883
高松第一	松島町 2-14-5	H21. 4		6,298		1,866		450	15,204
鶴尾	松並町 639-1	S22. 4		3,556		1,172		350	14,746
屋島	屋島中町 295	S22. 4		7,252		1,098		350	17,414
協和	元山町 88-2	S28. 4		6,087		909		350	19,456
龍雲	出作町 331-2	S36. 4		7,898		1,072		350	21,402
勝賀	香西南町 565	S37. 4		7,214		1,049		350	22,162
一宮	一宮町 1185-1	S22. 4	45	5,112		904		350	23,091
香東	円座町 771	S40. 4		5,717		1,073		350	21,547
下笠居	生島町 372-1	S22. 5		2,906		915		350	13,104
男木	男木町 1988	S22. 5	349	63		686			498
山田	川島東町 1257-1	S32. 4		5,110		1,709		712	21,668
太田	太田下町 1800	S57. 4		6,307		1,164		350	18,613
古高松	新田町甲 190-1	S59. 4		6,962		1,154		350	25,913
木太	木太町 5059-3	S61. 4		6,494		1,154		350	27,295
塩江	塩江町安原上 231-1	S36. 4		2,504		1,935			11,214
牟礼	牟礼町牟礼 46-2	S22. 4		7,213		1,055		545	31,023
庵治	庵治町 691-1	S22. 5		3,868		1,491		727	21,105
香川第一	香川町浅野 1188	S34. 2		7,214		1,914		672	46,884
香南	香南町横井 801	S28. 4		4,253		3,352			21,599
国分寺	国分寺町新居 1131-1	S36. 5		7,277		1,920			25,093
計 23 校			404	133,475		31,471		7,494	488,128

※ 高松第一中学校の敷地は高松第一小学校と、男木中学校の敷地は男木小学校と、塩江中学校の敷地は塩江小学校と併用

(4) 高等学校

ア 生徒・教職員数

区分 学校名	学級数	生徒数	教職員数											計
			校長	教頭	教諭	常勤講師	代替常勤講師	養助教・養助手	実習指導助	時間講師	事務	用務	非常勤嘱託	
高松第一高等学校	24	914	1	2	56	5	0	2	1	22	5	2	7	103

イ 高等学校施設の現況

学校名	所在地	創立年月	建物面積 (㎡)				敷地面積 (㎡)
			校舎		屋内運動場		
			木造	非木造	木造	非木造	
高松第一高等学校	桜町二丁目 5 番 10 号	S 3. 4		12,811		4,086	38,733

2 学校給食調理場

	施設数	対象校数	
		小学校	中学校
単独方式	16 箇所	15 校	1 校
親子方式	14 箇所	15 校	12 校
センター方式	6 箇所	17 校	10 校

3 少年育成センター

ア 施設等の概要

名称	所在地	設置日
高松市少年育成センター	番町一丁目 8-15 (高松市役所本庁舎10階)	昭和 39 年 4 月 1 日

イ 運営機構

所長 1 名、所長補佐 1 名、補導係 11 名（専門指導員 6 名含む非常勤嘱託 8 名）

4 総合教育センター

ア 施設等の概要

名称	所在地	設置日
高松市総合教育センター	高松市末広町 5	平成 23 年 4 月 1 日
《適応指導教室》 ・虹の部屋 ・みなみ	高松市末広町 5 香川町川東上 1659-4	平成 3 年 6 月 1 日 平成 18 年 1 月 10 日 合併により香川町から引き継ぐ。

イ 運営機構

所長 1 名、所長補佐 1 名、研修係長 1 名、指導主事 5 名

研修指導員（嘱託） 8 名、事務員（嘱託） 2 名

適応指導教室 室長（嘱託） 1 名、指導員（嘱託） 2 名、指導援助者（嘱託） 4 名

指導者・アドバイザー 2 名（大学教員等）

研究協力校 3 校（2 小学校、1 中学校）

5 社会教育施設

(1) 生涯学習センター

ア 施設等の概要

名称	所在地	延床面積	開館日
高松市生涯学習センター 愛称：まなびCAN	片原町 11-1 (むうぶ片原町ビル)	3,186.24 m ²	平成 14 年 5 月 1 日

イ 運営機構

館長 1 人、館長補佐 1 人、業務係長 1 人、業務係 3 人、嘱託 7 人（内 2 人は夜間管理人）

(2) 図書館

ア 施設等の概要

名称	所在地	延床面積	開館日
高松市中央図書館	昭和町一丁目2-20 (サンクリスタル高松内)	8,718.00 m ²	平成4年11月3日
高松市松島図書館	(休館)		昭和47年7月21日
高松市牟礼図書館	牟礼町牟礼130-2	428.84 m ²	昭和56年6月2日
高松市香川図書館	香川町川東上1865-13 (高松市香川支所隣)	3,055.21 m ²	平成19年4月28日
高松市国分寺図書館	国分寺町新居1298 (高松市国分寺支所隣)	800.30 m ²	平成1年4月4日

イ 運営機構

中央図書館 館長1名、主幹1名、館長補佐2名、管理係3名(含嘱託2名)、資料係6名(含嘱託4名)、館内サービス係23名(含嘱託17名)、業務係4名(含嘱託2名)、移動図書館係7名(含嘱託2名)

牟礼図書館 館長1名、館員5名(含嘱託3名)

香川図書館 館長1名、館員7名(含嘱託5名)

国分寺図書館 館長1名、館員4名(含嘱託3名)

(3) 歴史資料館

ア 施設等の概要

名称	所在地	延床面積	開館日
高松市歴史資料館	昭和町一丁目2-20 (サンクリスタル高松4階)	1,925 m ²	平成4年11月3日
高松市石の民俗資料館	牟礼町牟礼1810	1,709.86 m ²	平成7年3月20日
高松市香南歴史民俗郷土館	香南町由佐253-1	1,144.30 m ²	平成10年5月3日
高松市讃岐国分寺跡資料館	国分寺町国分2177-1	288 m ²	平成5年9月4日

イ 運営機構

歴史資料館 館長1名(嘱託)、業務係長1名、業務係8名(含嘱託6名)

石の民俗資料館 館長1名(嘱託)、係員5名(含嘱託4名)

香南歴史民俗郷土館 館長1名(併任)、係員3名(嘱託)

讃岐国分寺跡資料館 館長1名(併任)、係員2名(含嘱託1名)

(4) 菊池寛記念館

ア 施設等の概要

名 称	所 在 地	延床面積	開館日
菊池寛記念館	昭和町一丁目2-20 (サンクリスタル高松3階)	687 m ²	平成4年11月3日

イ 運営機構

館長1名(嘱託)、業務係長1名、業務係5名(含嘱託4名)